研究報告書第69号
Ｅ３－０３

『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究』

～「新しい荒れ・学級崩壊」未然防止の手立て～

２００３．３

山形県教育センター

はしがき

近年の国際化・情報化・科学技術の進歩・少子化・高齢化等，急激な社会の変化は子どもたちにも大きな影響を及ぼし，不登校や真面目な子どもがすぐにキレルといった青少年の新たな問題など，深刻な問題が発生しております。また，学校においては「子どもが落ち着いて学習できない」「学級がうまく機能しない」などの問題が起こり，家庭や地域と連携しながら，子どもたちをどう育てていくかが緊急の教育課題となっております。こうした社会と子どもたちの変化に対応すべく，中央教育審議会の第一次答申でも，子どもたちの個性を重視し，「ゆとり」の中で「生きる力」の育成を図ることが強調されております。

このような状況を踏まえ，当教育センターでは「学級経営」に関する調査研究を平成12年度から３年計画で実施しております。「学級経営」の核となる「信頼関係」に重点を置き，子どもたちの実態を把握したうえで，「変化する子どもと信頼関係を築く学級経営」はどのようにあればよいのかを明らかにすることが「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止につながるのではないかと研究に取り組んできました。

研究の１年目は，理論研究を進めるとともに，県内の児童と教員，合計3,000人を超える方々にアンケート調査を実施しました。子どもたちの生活の変化と発達の実態を把握し，子どもたちのできることを明らかにし，成長・発達の課題の達成にせまる指導の手がかりなどを提案しました。

２年目は，前年度実施したアンケート調査と同じ内容で，県内小学校で担任をしている教員約900名に，学級担任がとらえている子どもたちの生活に関する調査と学級経営に関する調査を実施しました。学級担任から見た子どもの実態を分析し，子どもたちと学級担任との意識のズレなどを比較し，「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止に役立つよう「学級崩壊」に関わる事例を紹介しました。

最終年度の本年は，２年間の研究を基に，さらに詳細な分析研究に取り組みました。県内小学校における学級経営の傾向を明らかにし，「学級経営チェック表」や学級経営の見直しに役立つ「改善のためのアドバイス」，学級崩壊を未然に防ぐための「学級崩壊チェック表」と「対応表」などを提案しました。今後の学級経営に生かせるようまとめてありますので，有効に活用していただければ幸甚です。

最後になりましたが，本研究を進めるに当たり多大なご協力を賜りました，山形大学教育学部助教授　出口　毅　氏，各学校の先生方をはじめとする関係各位に，衷心より厚く御礼を申し上げます。

平成15年３月

山形県教育センター
所長　鈴　木　強　太

研　究　協　力　者
（平成12年度～平成14年度）

山形大学教育学部
助教授　　出　口　　毅

研　究　担　当　者
（平成12年度）

山形県教育センター
教育相談部長　深　瀬　　薫
指導主事　　田　中　利　幸
指導主事　　會　田　以久子
指導主事　　武　田　　悟
指導主事　　後　藤　憲　昭

（平成13年度）

山形県教育センター
教育相談部長　竹　田　眞知子
指導主事　　田　中　利　幸
指導主事　　會　田　以久子
指導主事　　武　田　　悟
指導主事　　後　藤　憲　昭

（平成14年度）

山形県教育センター
教育相談部長　竹　田　眞知子
指導主事　　田　中　利　幸
指導主事　　會　田　以久子
指導主事　　武　田　　悟
指導主事　　平　塚　志　信

（カット協力：平成12，13年度）
天童市立山口小学校教諭　荒　浪　伸　二

（資料整理カード　Ｅ３－０３）
研究報告書第69号（平成15年３月刊）

『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究』

山形県教育センター

目　　次

Ⅰ　研究の基本的な考え方……2
Ⅱ　「変化する子ども」に関する本県の現状……4
　1　アンケート調査の概要
　2　調査結果の考察
　　＊調査結果の詳細は１年次中間報告書を参照
Ⅲ　児童の実態から見えるクラスづくりの視点……9
　1　発達課題の達成のための関わり
　　【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】
　2　「信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点」に基づく活動例
Ⅳ　「変化する子ども」に関する教員へのアンケート調査……10
　1　アンケート調査の概要
　2　調査結果の考察
　　＊調査結果の詳細は２年次中間報告書を参照
Ⅴ　「学級経営」に関するアンケート調査……14
　1　アンケート調査の概要
　2　調査の結果と考察
　　(1)　プラスの回答から分かる傾向
　　(2)　因子分析の結果から見える傾向
　　(3)　学級経営チェック表の作成
Ⅵ　「学級崩壊」に関する事例に学ぶ……21
　1　提供事例について
　2　「学級崩壊」未然防止のために
　　【学級崩壊未然防止につながる６つの視点】
おわりに……37

（巻末資料）
・信頼関係を築くクラスづくりのための視点に基づく活動例（p.26～p.27）
・〔学級経営チェック表〕【改善のためのアドバイス】（p.28～p.30）
・〔学級崩壊チェック表〕兆しを感じたときの〔対応表〕（p.31）
・因子分析結果（p.32）
・本調査研究で実施したアンケート調査内容（p.33～p.36）
・参考文献一覧

Ⅰ　研究の基本的な考え方

1　研究主題

『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究』
～「新しい荒れ・学級崩壊」未然防止の手立て～

2　主題設定の理由

近年，国際化，情報化の進展や科学技術の進歩，少子化や高齢化等の社会の変化は，親の生き方を変えてきただけでなく，当然子どもたちの生活や考え方に大きな影響を及ぼしています。そして，学校教育においてもさまざまな教育課題を生み出し，それに伴って学校の在り方そのものも問われてきています。

このような状況の中で，親の考えや生活スタイル，学校や教員への期待も個々に異なってきて，教員，特に担任にはそれぞれの子どもへの対応が求められてきました。また，子どもたちの人間関係の希薄化などの傾向から深刻な問題が提起されています。

そこで，変化している子どもたちの実態をとらえ，子どもたち一人一人と信頼関係を築き上げていく学級経営の在り方を探っていきたいと考えました。

3　研究の概要

平成10年度に文部省より研究委嘱を受けた国立教育研究所・学級経営研究会は，「学級経営の充実に関する調査研究」を２年間行い，その最終報告書で，「学級がうまく機能しない状況」の回復過程に焦点を合わせた事例の収集・分析と考察がまとめられています。そこで，当教育センターでは，変化している子どもたちの実態を把握し，信頼関係を築く学級経営の在り方を探るとともに，「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止をねらって３年計画で研究に取り組むことにしました。

学級経営において，子どもたちを理解し信頼関係を築くことが，いわゆる「新しい荒れ・学級崩壊」を未然防止するための手立てとなるばかりでなく，子どもたちの成長・発達をうながすさまざまな教育活動をすすめるためには欠かせないことです。そこで，「学級経営」の核となる「信頼関係」に重点を置き，子どもたちの実態を「個人の意識・感情に関すること」「対人行動の発達に関すること」「集団行動の発達に関すること」「生活体験と遊びに関すること」の４つの領域からとらえることにしました。実態調査を基に，子どもの成長・発達のための学校における指導課題を明らかにし，子どもたち一人一人と信頼関係を築き上げていく学級経営の在り方を探っていくことが「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止にもつながると考えました。

さらに，子どもたちの実態を分析していくために，子どもたちの一番身近な学級担任の先生方にアンケート調査のご協力をお願いし，担任がとらえている子どもたちの実態，子どもたちと担任との意識のズレ，学級経営の実態などを明らかにすることにしました。

また，「学級崩壊」に関わる事例の提供をお願いし，「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止の手立てを事例より学ぶために分析しました。

(1)　第１年次の研究内容（平成12年度）

①　子どもの発達に関する文献研究と講師を招聘しての研修

②　子どもたちの実態を把握するため，下記の４つの観点別に合計21の質問からなるアンケート調査を実施

〈個人の意識・感情に関すること〉…６つの質問（Q1～Q6）
〈対人行動の発達に関すること〉……５つの質問（Q7～Q11）
〈集団行動の発達に関すること〉……５つの質問（Q12～Q16）
〈生活体験と遊びに関すること〉……５つの質問（Q17～Q21）

③　調査結果から読み取れる子どもの成長・発達のための学校における指導課題の検討

④　『信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点』の設定と活動例作成

⑤　中間報告書とリーフレットの作成・配布

(2)　第２年次の研究内容（平成13年度）

①　実態調査

(ア)　担任から見た子どもたちの生活に関する調査
担任を対象に平成12年度と同じアンケート調査を実施

(イ)　担任の学級経営に関する実態調査
学級経営に関する60項目の質問を設定したアンケートを実施

(ウ)　「学級崩壊」に関わる事例の収集

②　実態調査の分析

(ア)　担任から見た子どもの実態

(イ)　担任の子どものとらえ方や児童と担任との意識のズレ

(ウ)　「学級崩壊」に関わる提供事例の考察

③　２年次の研究のまとめと中間報告書作成・配布

(3)　第３年次の研究内容（平成14年度）

①　前年度までの研究の集約

(ア)　「変化する子ども」に関する本県の現状

(イ)　児童の実態から見えるクラスづくりの視点

(ウ)　学級担任がとらえている子どもの実態

②　「学級経営」に関するアンケート調査の考察

③　学級経営チェック表の作成

④　「学級崩壊」未然防止のためのチェック表作成

⑤　研究のまとめと最終報告書作成・配布

II　「変化する子ども」に関する本県の現状

…１年次中間報告（平成12年度）記載内容の総括
〔調査結果の詳細は中間報告書を参照〕

1　アンケート調査の概要

(1)　目的
①　子どもたちの発達をとらえ直す。
②　子どもたちの生活が「変化している」実態を明らかにする。

(2)　調査の実施
①　時期：平成12年度10月中旬より11月上旬
②　対象：県内の第３学年～第６学年の児童2,898名（61校）
第１学年・第２学年担任の教員190名（61校）
③　方法：アンケート調査は質問紙法を用い，児童は記名して回答。教員は無記名で回答。
④　質問項目の観点　＜全部で21の質問を設定＞
〈個人の意識・感情に関すること〉…６つの質問（Q1～Q6）
〈対人行動の発達に関すること〉……５つの質問（Q7～Q11）
〈集団行動の発達に関すること〉……５つの質問（Q12～Q16）
〈生活体験と遊びに関すること〉……５つの質問（Q17～Q21）
☆アンケート調査内容を巻末（p.33～）に掲載。

2　調査結果の考察

(1)　プラス傾向とマイナス傾向の回答から分かる特徴（１年次中間報告 p.13～）
①　小学校中・高学年の発達課題の特徴
どの学年も同じような傾向を示しています。これは，学年の発達に従って新たに身につけていくものよりも，同じ発達課題を繰り返し学習し，成長するにしたがってスパイラル的に強化していくようなものが多いためであると考えられます。これは，乳幼児期から小学校低学年までの発達課題と，小学校中学年以降の発達課題との質の違いであり，児童の成長によって自然に身についていくものではなく，繰り返し働きかけ育てていく必要があることがわかります。
②　「９歳の壁」との関連
プラス傾向の回答に着目すると，４～５年で落ち込み６年で伸びるU字曲線を描く質問が特徴的に見られます。こうした傾向は，自己中心的な視点で物事を認識する低学年の時期から，抽象的思考が発達して物事を外側から見つめる客観的な視点をもつようになる時期，いわゆる「９歳の壁」との関連が考えられます。ギャング・エイジと言われるように，仲間との関わりが大切になってくるこの時期には，他とどう関わっていいのか迷い，自分の在り方を模索する傾向にあります。それまでの価値観が大きく変わっていくことから，気持ちが安定せず落ち着きが無くなったり，自信がもてずに自分のよさが分からなくなったりします。小集団で仲間と一緒に活動する楽しさは味わえるのですが，クラス全員で取り組んでいるという一体感や，しみじみと感動する心はまだ発達途上にあると考えられます。その結果，「対人行動の発達に関すること」の項目が４～５年で一度落ち込むのでしょう。しかし，やがて自分なりの身の処し方が見つかり，６年で再び伸びるU字曲線を描くことが考えられます。正に壁を一つ乗り越えたように落ち着きを取り戻し，心も一段と成長するようです。児童会で下級生の先頭に立って活動したり，学校行事の際に重要な仕事を任されたりするなど，最高学年であるという自負や周囲からの意識づけが成長のきっかけになっていると考えられます。そこで，４～５年の時期に，その子なりの身の処し方を身につけ，仲間とよい関わりがもてるように支援することや，個人としての自尊感情が高まるような機会を具体的に設定してやること，読書や演劇・映像の視聴などをとおしてしみじみとした感動を味わわせること，クラス全体が一体となって協力してものごとに取り組んだという体験を味わわせることなどが課題となります。
③　高学年で落ち込む資質
前述の４～５年での落ち込みが，６年でも回復せずにさらに落ち込んでいく質問が見られます。こうした質問の関連を考察すると，自分が役に立っているという有用感や自信のなさから自尊感情が低くなり，自分の感情や気持ち・考えなどを人に話せず，集団との関わりができにくい状態に陥ってしまう状況がうかがえます。こうした状況の打破には，児童が自分のよさを認識できる具体的な場を設定するとともに，自分の感情や気持ち，考えなどを相手にどう伝えたらよいかトレーニングすること，自然と触れ合い心を解放するような感動体験を味わわせることなどが課題となります。

(2)　県内小学校中・高学年の特徴と課題（１年次中間報告 p.19～）
①　一般的な特徴
プラス傾向の質問から，落ち着きがあり，思いやりや協調性のある，学級集団づくりの素地となる児童の意識が育っていると考えられます。反対にマイナス傾向の質問から，自尊感情や自己有用感が低く，クラスの中で言い出しにくいような気持ちや考えを表出できないでいる児童が多いことがうかがえます。感動体験については，体育や特別活動などの活動をとおして互いに協力して創り上げる喜びを体験している児童が多いのに対して，読書や映像などをとおして感動を味わう体験が少ないことがうかがえます。感動する心を育む土壌ともなる自然活動体験については，心身の発達を育む源となる自然体験活動の機会を設定し，感動する心を耕していく必要があります。
②　強いマイナス傾向の回答から分かる特徴
強いマイナス傾向の回答に着目すると，「クラスの中で自分が役に立っているとは全く思えない。」という児童や「自分のいいところを全く言えない。」という児童がクラスにいることを認識して，意識的に関わってあげる必要があります。また，「本当は嫌だと思っていることでも『いいよ』と言うことが全くない。」という児童が，４年以上では少なくなっている点から，言い出しにくいような気持ちや考えを，相手に伝えることが難しく

なっている状況がうかがえます。「朝，教室の中に入るときに全くあいさつをしない。」「自分の意見や考えを全く言わない。」「もめごとを話し合いで解決しようと全くしていない。」「５～６人以上で遊ぶことが全くない。」という児童がいることを念頭に置きながら，もの言わぬ児童がいないように，一部の児童だけのコミュニケーションに終わらないような関わりのさせ方に配慮していく必要があります。

「生活体験と遊びに関すること」については，「チョウやトンボ，草花を全くとったことがない。」「犬やネコ，ウサギなどを全くだいたことがない。」という児童がいます。こうした自然や生き物を相手に伸び伸びと遊ぶ体験の不足は，「泣きたくなるようなけがを全くしたことがない。」という児童がどの学年にもいることからもうかがえます。また，「本やテレビドラマ，映画を見て涙が出るほど胸がいっぱいになったことが全くない。」という児童が，どの学年にもいます。深い感動を呼ぶような作品が児童の周りに少なくなっている状況や，底の浅い刹那的な笑いや暴力的な描写，性的な描写の横行など大人社会の影響が懸念されます。

児童や教師の気持ちが通い合う温かな学級づくりのためには，相手の気持ちを推し量ったり，ものごとを豊かに感じ取ったりする資質のあることが大事な要素の一つになってくると考えます。そこで，心を震わせるような豊かな感動体験ができる場や機会を設定することが課題となります。

こうしたことから，次のことが指導課題となります。

＊　自分の存在を実感することができる場をつくる。
＊　自分の気持ちや考えなどを，安心して交流できる人間関係を育てる。
＊　言い出しにくい内容の気持ちや考えなどの伝え方を身につけさせる。
＊　心をゆさぶる本や映像，自然などとの触れ合いをとおして，感動や疑問をもつ場や機会を設定する。

(3)　１・２学年担任教員へのアンケートから（１年次中間報告 p.28～）

１・２学年児童自身へのアンケート調査による実態把握は難しいと考え，担任の先生方をとおして低学年の実態把握を試みました。「担任学年の発達段階を考えると，各質問に該当する児童がクラスにどのくらいいるのが適当（理想）だと思うか。」と「実際担任しているクラスの児童の実態はどうか。」の二つを答えていただきました。１・２学年担任の強いプラス傾向の回答に着目して１・２学年児童の大まかな傾向をまとめました。

①　１・２学年児童の発達の特徴

すでに相手意識や集団としての仲間意識などが育っていることがうかがえ，互いに相手と関わって生きる資質が感じられます。しかし反面，中・高学年の発達課題と同様に，自尊感情や自己有用感がもてず，言い出しにくい事柄について相手と関わりにくい傾向が見られます。そこで，低学年でその素地となるところを十分に耕してあげる必要があります。また，ものごとに深く感動する心に関しても，低学年のうちから「気づき方」「感じ方」「表現の仕方」など，感動する心の土台となるような耕しをしてあげる必要があります。

②　１・２学年担任の描く理想の子ども像

１・２学年担任が理想と考える子どもは，「人の話を最後まで聞ける耐性があること，友達や仲間と前向きな関わりができること，生き物や自然と関わって活動すること」など，明朗快活な子ども像が浮かび上がってきました。反対に１・２学年児童の発達として，「自分の負の感情に対する耐性や，友達や仲間に対して言い出しにくい意見や考えを上手に伝えること，本やテレビドラマ，映画などで深く感動すること」などについては，そう高いことを望むのは無理だと考えているようです。

③　理想の子ども像と実態との比較から見えてくるもの

「担任している学年の発達から適当（理想）」としての回答と，実態としてとらえた回答との差が著しいのは，「話を最後まで聞くことや素直にあやまること」で，教員の要求水準が高いことがうかがえます。また，ギャップを感じていながらなかなか育てられないでいる傾向も見られ，こうしたギャップを埋める手立てを考える必要があります。

(4)　各質問の相関から（１年次中間報告 p.31～）

各質問に挙げられている資質が，他のどんな資質と関連しているのかを調べました。児童のある資質を育てることが，他にどんな資質を育てることと関連しているのかを把握することにより，多様なアプローチの仕方が可能になります。

①　まずできるところから着手

各質問に挙げられている資質は，個々に存在しているのではなく，それぞれが密接に結びついている資質であることがうかがえます。これはある資質を育てていくと，他も一緒に育っていくという可能性を示しています。そこで，担任として現在取り組んでいることや，とりあえずできるところから広げていくという方向性が見えてきます。授業やさまざまな活動をとおして，自尊感情や自己有用感を持たせるための言葉がけ。目標をみんなで達成しようとする学校行事への取り組み。自分の気持ちや考えを相手にうまく伝えられるための自己主張訓練や，相手とうまく関われるためのソーシャル・スキル・トレーニング，構成的グループ・エンカウンターなどの手法。こうしたさまざまな方向から繰り返し実践していく間に，次第に安心して関わり合える学級の人間関係が育てられていくと考えます。また，その際十分にゆとりのあるスケジュールを立て，それぞれの取り組みを単発的にではなく，総合的に結びつけながら実践していく必要があります。

②　「励ましてあげる」が鍵

どの学年でも他の質問と関連性が高い質問は『あなたは，クラスの中に失敗してがっかりしている人がいるとき，はげましてあげますか。』です。落ち込んでいる人を励ましてあげられるような資質を育てていくことが，他のさまざまな資質を育てていくことにつながっていくと考えられます。そこで，授業やさまざまな活動の中でつまずいたり落ち込んだりしている児童がいる場合，教師自ら励ましてあげる対応の仕方をモデルになるようにして見せたり，他の児童にも知らん顔をせずに励ましてあげられるように働きかけたりすることが大切です。互いの欠点やマイナス面をあげつらうような話し合いではなく，元気が出るような前向きな関わり合いの仕方を育てていく必要があります。また，児童のつまずきや失敗を受け止め，そこからどう修正していくか一緒に考えるなど，その過程につきあってあげることが大切です。こうしたつまずきや失敗を，前向きに考

えていこうとする教師の姿勢が，互いのつまずきや失敗を受け止め励まし合う児童の関係につながります。

③　自己コントロール（我慢）できた体験を積ませること

反対に，どの学年でも他との関連性が低い質問は，『あなたは，クラスの中でイライラしたとき，人に当たりちらさないでがまんしていますか。』です。これは「耐性」に関わる質問で，このことから，我慢できる力は他の資質とは関連のないところに存在しているようです。つまり，「耐性」は我慢する体験をとおしてのみ育てることができるということが考えられます。そこで，授業やさまざまな活動の中で，児童にとって少し大変なことや努力を要することに対面させ，自己コントロール（我慢）できたという体験を積むようにすることが大切です。その際，児童の意欲を大事にしながらつまずきや失敗体験を受け止め，修正する時間を保障してあげる必要があります。

④　自然体験や感動体験を大事にする

「チョウやトンボ，草花をとったことがある・犬やネコ，ウサギをだいたことがある・泣きたくなるけがをしたことがある」なども他との関連性が低い質問でした。これらはいずれも「生活体験と遊びに関すること」に関わる質問です。こうした資質は，やはり体験をとおさなくては育たないと考えられます。また，「本やテレビドラマ，映画で胸がいっぱいになる。」ことも，どの学年でも他の質問との関連性が低い傾向にあります。心を震わせるような感動を，児童自身の体験をとおして味わわせることが課題となります。

Ⅲ　児童の実態から見えるクラスづくりの視点

…１年次中間報告（平成12年度）記載内容の総括

1　発達課題の達成のための関わり

調査の結果から，研究主題に迫るために特に達成させたい発達課題が見えてきました。また，課題を達成させるためには，現在学級で取り組んでいることをもとに，まずできるところから着手し，さまざまな働きかけを意図的に関連づけていくことが大切であることも見えてきました。

信頼関係を築くクラスづくりのためには，次のような視点をもった関わりが大切です。

【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】

①　自分の存在を実感することができる場や機会をつくる。
②　あいさつや励ましてあげる声がけができる人間関係を育てる。
③　自分の気持ちや考えなどを，安心して交流できる人間関係を育てる。
④　自己コントロール（我慢）できた体験を大事にする。
⑤　目標をみんなで達成できた喜びを体験できる場や機会をつくる。
⑥　心をゆさぶる本や映像，自然などとの触れ合いをとおして，感動や疑問をもつ場や機会をつくる。

学級担任としての児童との関わりあいについて，次のような場面が考えられます。

□授業（各教科・道徳・総合的な学習）で
　…学校生活の中で，学級担任が一番長い時間児童と関わっている授業。
□特別活動（学級会活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）で
　…児童同士の話し合いや協力など直接的な関わり合いが中心となる特別活動。
□その他の生活場面（始業前・短学活・中間休み・昼休み・給食・清掃・放課後）で
　…共同作業や，争いごとが発生した時の対処の仕方を学ぶその他の生活場面。
□家庭との連携で
　…学級だよりや学習参観などによる家庭との連携。

2　「信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点」に基づく活動例

こうした学級で行われているさまざまな教育活動がどこに位置づくかを，上の視点と場面から一覧表にしてみました。

☆巻末（p.26～27）に掲載…1年次中間報告と同時にリーフレットとして配布。

この表は，決してあれもこれも取り組まなければならないということを示しているのではありません。現在学級担任として日々取り組んでいる教育活動の一つ一つを大事にしていくことが何より大切です。それぞれの学級の個性があってよいのです。その学級の担任と児童とで何ができるのかを考え，まずできることからやってみてはいかがでしょうか。

Ⅳ　「変化する子ども」に関する教員へのアンケート調査

…２年次中間報告書（平成13年度）記載内容の総括
〔調査結果の詳細は中間報告書を参照〕

１　アンケート調査の概要

児童を対象にして行ったアンケート調査と同じ内容の調査を，教員（第１学年～第６学年学級担任）を対象に行いました。

(1)　目的

①　教員（学級担任）が子どもの実態をどうみているかを明らかにする。
②　教員（学級担任）の子どものとらえ方と児童の意識のズレを明らかにする。
③　『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営』の課題を明らかにする。

(2)　調査の実施

①　時期：平成13年10月～11月実施
②　対象：県内の小学校103校で学級担任をしている教員
③　人数：875名（県内小学校教諭の25％に相当）
☆アンケート調査内容を巻末に掲載。

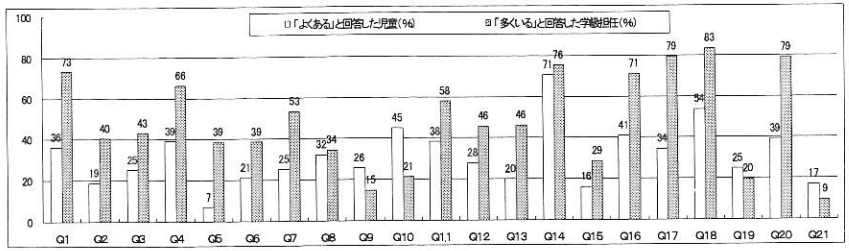
２　調査結果の考察

１年次に実施した児童の「よくある」の回答と，教員の「多くいる」の回答をもとに，学級担任がとらえている県内小学生の全体の傾向と児童の実態について考察しました。

☆２年次中間報告ｐ．４「比較検討に際しての留意点」参照。

(1)　学級担任と児童の回答の比較

「よくある」と回答した児童と，「多くいる」と回答した学級担任の学年全体の割合を比較しました。その差が±10％以内の場合を「ほぼ一致している」とし，それ以上の差がある場合に「上回っている（下回っている）」としました。



①　回答がほぼ一致している質問

Q8 優しく頼む。Q14 声をかけたり遊んだりする。Q19 本やテレビドラマ，映画で胸が一杯になる。Q21 泣きたくなるけがをしたことがある。の４つの質問は，学級担任と児童の回答がほぼ一致しています。クラスの人に声をかけて遊ぶ，大けがをしないことについてはできていますが，その他２つの質問については，一致していてもできている割合が低い傾向にあります。

自分の要求を相手に優しく伝えたり，読み物や映像によって胸が一杯になるような感動する体験が十分でない実態に学級担任が気づいていても，なかなか高められない様子がうかがえます。

②　学級担任の回答が児童の回答を上回っている質問

担任と児童の回答の割合がほぼ一致しているのは前述の４つの質問だけで，ほとんどの質問は担任の回答が児童の回答を上回っています。それだけ，担任は学級の児童をプラスの方向でとらえていると言えますが，児童自身の回答がそう高くないことを把握しておく必要があります。

特に30％以上差がある質問は，Q1 うれしいことを話す。Q5 役にたっていると思う。Q16 ５～６人以上で遊ぶ。Q17 チョウやトンボ，草花をとったことがある。Q18 犬やネコ，ウサギをだいたことがある。Q20 協力して喜び合う。などです。学級で自分が役にたっていると思うという自己有用感や，うれしいことがあったときに人に話をする，５～６人以上が誘い合って遊ぶなどの前向きな関わりについて，学級担任のとらえよりもできていないことがうかがえます。学級経営をとおして，そうした資質を伸ばすよう働きかける必要があります。

③　児童の回答が学級担任の回答を上回っている質問

Q9 「いいよ。」と言うことがある。Q10 上手に断る。の２つの質問は，学級担任より児童の回答が上回っています。

この２つの質問は，どちらも，相手に「断りたい自分の意思を伝える」もので，言い出しにくい内容を相手に伝える資質についての質問です。学級担任のとらえよりも，理由がはっきりしている場合は意外と上手に断ることができるようです。しかし，本当は嫌だと思っていることでも「いいよ」と言ってしまうという回答が学級担任のとらえよりも多く，一般に嫌なことでも断れない傾向にあるようです。

嫌なことを断れないことから，友達関係に悩んだり，問題行動や非行につながることがないように，断る訓練（アサーション・トレーニング）を実施する必要があります。

(2)　質問項目の観点から見える傾向

教員と児童の回答の差を比較し，アンケート調査の質問項目作成に関わる観点（p.3）から大まかな傾向をまとめてみました。

＊教員は特に児童の自己存在感や自己コントロールする資質，前向きに他と関わる資質について，児童の実態を上回るプラス傾向でとらえています。
＊自然体験や感動体験についても児童の実態を大きく上回ったとらえ方をしています。

児童の実態が教員のとらえよりも低い傾向にあることを認識し，特に「個人の意識・感情」「生活体験と遊び」に関する資質を高めるよう働きかける必要があります。

「対人行動の発達」「集団行動の発達」については，実態に近いとらえ方や実態よりも厳しいとらえ方をしている質問が見られます。一般に，教室内での児童相互の関わりは目につきやすいせいか実態が把握できているようですが，児童一人一人の内面に関わることや教室外での様子まで目を配っていく必要があります。

(3) 学年発達による変化の比較

担任の「多くいる」の回答の変化を示すグラフを見ると，学年が進むにつれて右上がりに変化していく質問，反対に右下がりに変化していく質問，上がり下がりがある質問が見られました。そこで，担任がとらえている学年発達による変化と児童の回答を比較してみました。

① 学年発達による変化が担任と児童で一致している質問

Q12 あいさつする。は学年発達による変化が担任と児童で一致しており，3～4学年では上昇するのに，5～6学年と下降していきます。高学年になるに従って気軽にあいさつをかわせなくなる状況がうかがえます。

Q5 役にたっていると思う。Q6 いいところを複数言える。Q13 自分の意見や考えを言う。は，4～5学年で下降しています。また，Q15 もめごとを話し合って解決する。は，5～6学年で下降しています。自尊感情や自己有用感を持たせることや自分の考えを伝えられるようにしていく必要があります。

② 担任と児童の回答にズレがある質問

担任は学年が上がるにつれて発達するととらえていても，児童の回答が下降していったり，反対に児童の回答が上昇傾向にある質問でも，担任の回答が下降していったりと，児童の回答と担任のとらえ方との間にズレのある質問があります。

Q3 人に当たり散らさないで我慢する。は担任の回答が5～6学年で上昇，Q4 話を最後まで聞く。は4～5学年で上昇，児童の回答は下降しています。

担任がとらえているより，我慢（自己コントロール）できる児童が少なくなっていくことがうかがえます。

③ 6学年で変化している質問

担任の回答でも児童の回答でも，5学年まで下降し6学年で特徴的に上昇している質問や，反対に6学年で下降している質問もありました。そこで，6学年で変化している質問について，担任と児童の回答を比較してみました。

Q11 素直に謝る。は担任と児童双方の回答が5学年で下降し6学年で上昇しています。6学年になることにより，自分の非を認めるという面では社会性が育っていくことがうかがえます。Q5 役に立っていると思う。Q13 自分の意見や考えを言う。Q14 声をかけたり遊んだりする。は担任の回答は5学年で下降し6学年で上昇していますが，児童の回答は6学年で下降しています。担任が期待しているほど児童の自己有用感が高まったり互いの関わりが深まったりしていないようです。

Q19 本やテレビ，映画で胸が一杯。は担任の回答が5学年で下降して6学年で上昇しているのに対して，児童の回答は5～6学年と上昇しており，担任のとらえ方よりも感動する心の土台が育っているようです。

Q4 話を最後まで聞く。Q10 上手に断る。Q20 協力して喜び合う。は担任の回答は

4～6学年と学年発達に伴い上昇していますが，児童の回答が5学年で下降し6学年で上昇しています。「よく聞いている」児童や「上手に断ることがよくある」児童が，5学年まで下降していくことを把握する必要があります。

Q6 いいところを複数言える。Q7 励ましてあげる。Q8 優しく頼む。は担任の回答が5～6学年で下降しているのに対して，児童の回答は4～5学年と下降しますが6学年で上昇しています。担任のとらえ方よりも，6学年になることにより自尊感情や他と関わる資質が高まっていることがうかがえます。

6年生は自我が育つ前思春期の時期であり，さまざまな活動で下級生の指導的な立場に立つことが多くなります。回答に現れた変化は，こうした児童の気持ちや活動面で5年生までとは違った特別なものになることからきていると考えられます。

児童の回答のうち，6つの質問にわたって6学年で上昇しており，最上級生としての自覚や活動が児童の成長をうながすことがうかがえます。そこで，児童のとらえ方が実態とずれないように注意しながら育てていく必要があります。

Ⅴ　「学級経営」に関するアンケート調査

…２年次中間報告書（平成13年度）記載内容の分析

１　アンケート調査の概要

(1)　目的

①　学級担任へのアンケート調査により，学級経営の現状と課題を明らかにする。

②　『変化する子どもとの信頼関係を築く学級経営』の方策を探る。

(2)　調査の実施

①　時期：平成13年度10月中旬より11月上旬

②　対象：県内の小学校103校で学級担任をしている教員875名

＊「変化する子ども」に関する教員へのアンケート調査と同時に，同じ教員を対象に実施。

③　方法：回答は「いつもしている」「ときどきしている」「ほとんどしていない」の３件法で実施。

④　調査（質問）項目の設定

学校生活を４つの場面に区分し，【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】（p.９参照）をもとに，学級経営に関する具体的な活動をどの程度行っているかを問う質問を，４つの区分ごとにそれぞれ15ずつ合計60項目を設定（Q1～Q60）。

☆質問項目の詳細は，巻末のアンケート内容（p.33～）を参照。

＊4つの場面の区分は次のとおりです。

A「教科・道徳・総合的な学習の時間」

B「特別活動」

C「その他の場面」

D「家庭学習・家庭との連携」

＊６つの視点は次のとおりです。

①　自分の存在を実感することができる場や機会をつくる。

②　あいさつや励ましてあげる声がけができる人間関係を育てる。

③　自分の気持ちや考えなどを，安心して交流できる人間関係を育てる。

④　自己コントロール（我慢）できた体験を大事にする。

⑤　目標をみんなで達成できた喜びを体験できる場や機会をつくる。

⑥　心をゆさぶる本や映像，自然などとの触れ合いをとおして，感動や疑問をもつ場や機会をつくる。

＊各質問（Q1～Q60）がどの区分と視点に位置づけられているかは次表のとおり。

４つの区分 ／ ６つの視点	場面A（教科・道徳）	場面B（特別活動）	場面C（その他の場面）	場面D（家庭・連携）
①　自己存在感	A１(Q１.２.３)	B１(Q16.17)	C１(Q31.32)	D１(Q46.47.48)
②　あいさつ励ましの声がけ	A２(Q４.５)	B２(Q18.19)	C２(Q33.34.35)	D２(Q49.50.51)
③　気持ちや考えを交流	A３(Q６.７.８)	B３(Q20.21)	C３(Q36.37.38)	D３(Q52.53)
④　自己コントロール	A４(Q９.10)	B４(Q22.23.24)	C４(Q39.40)	D４(Q54.55.56)
⑤　みんなで達成体験	A５(Q11.12)	B５(Q25.26.27)	C５(Q41.42.43)	D５(Q57.58)
⑥　本や自然で感動体験	A６(Q13.14.15)	B６(Q28.29.30)	C６(Q44.75)	D６(Q59.60)

２　調査の結果と考察

(1)　プラスの回答から分かる傾向

３件法による回答結果は**表１**のとおりです。「いつもしている」と「ときどきしている」の回答を合わせると41項目が90％以上になります。また，全ての項目が70％以上になります。このことから，教員の多くが概ね前向きに学級経営に取り組んでいることがうかがえます。

しかし，これではそれぞれの項目の差異が見えてきません。そこで，「いつもしている」の回答を基に分析することにします。**表２**は，「いつもしている」の回答の割合が多い項目順に並べたものです。学級経営の中で，担任としていつも心がけて取り組んでいるかどうかで見ていくと差異が明らかになります。「いつもしている」の回答が50％に満たない質問が60項目中38項目あります。学級経営の中でいつも心がけて取り組んでいない項目が過半数以上あるという事実が見えてきます。

表１

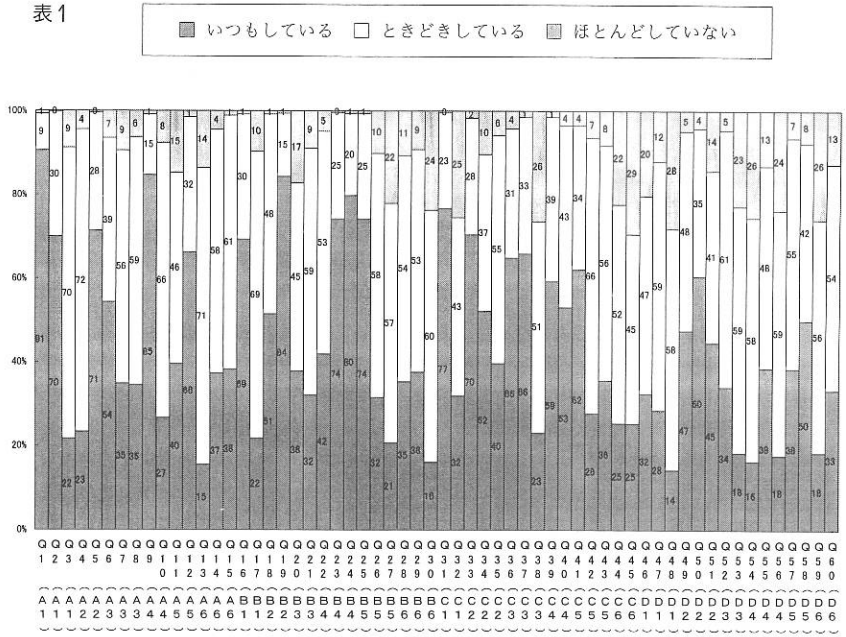
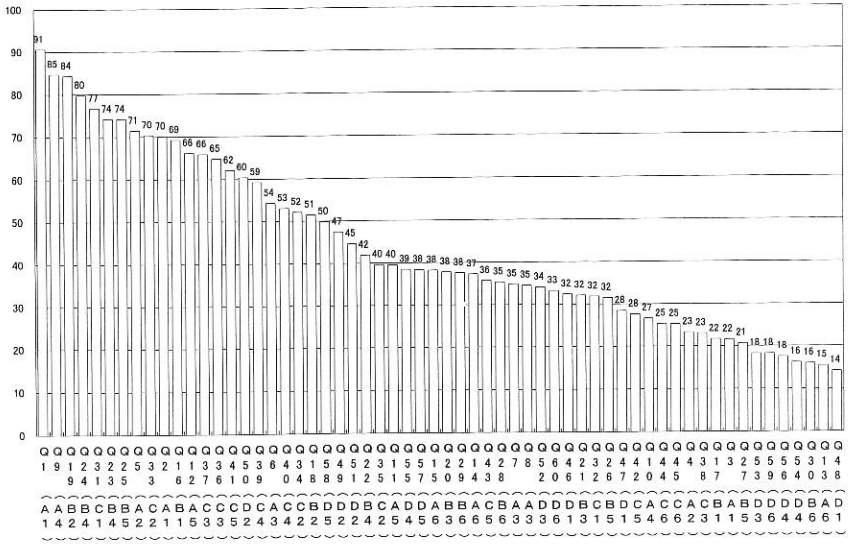


表２



そこで，学級経営の中でいつも心がけて取り組んでいる項目と，いつも心がけては取り組んでいない項目との間にどんな関係や特徴があるのか探ってみることにします。

① 学校生活に関する４つの区分別に見られる傾向

「教科・道徳・総合的な学習の時間」「特別活動」「その他の場面」「家庭学習・家庭との連携」の４つの区分別に「いつもしている」の回答が多い順に並べたのが**表３－１**です。

どの場面でも似たような右下がりの形状を示しています。各場面15項目の内50％以上の回答があった質問は，「教科・道徳・総合的な学習の時間」では６項目，「特別活動」でも６項目，「その他の場面」では８項目，「家庭学習･家庭との連携」では２項目です。反対に30％未満の回答だった質問は，「教科・道徳・総合的な学習の時間」では４項目，「特別活動」では３項目，「その他の場面」では４項目，「家庭学習・家庭との連携」では６項目です。担任は授業中だけではなく休み時間や給食・清掃等の時間も学級づくりのために児童に働きかけていることがうかがえます。しかし，家庭への働きかけは一般にあまりなされていません。

② 【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】に見られる傾向

【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】別に「いつもしている」の回答が多い順に並べたのが**表３－２**です。視点別のグラフもまた，どれも似たような右下がりの形状を示しています。各視点で50％以上の回答があった質問数は，視点①では4項目，視点②では６項目，視点③では３項目，視点④では５項目，視点⑤では４項目，視点⑥では無しでした。

反対に30％未満の回答だった質問数は，視点①では４項目，視点②では１項目，視点

表３－１（場面別）

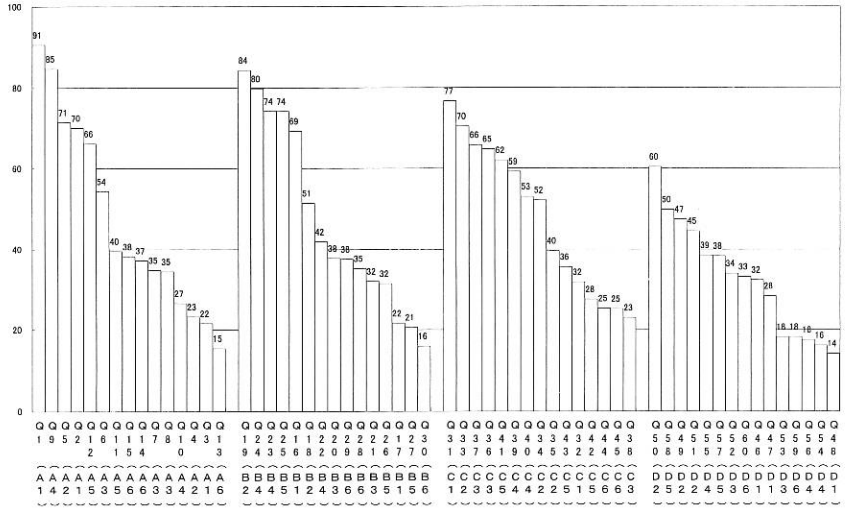
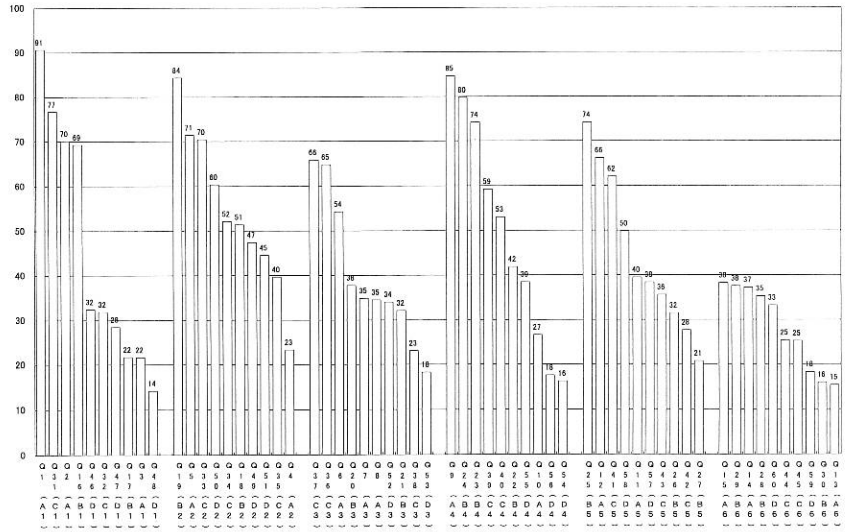


表３－２（６つの視点別）



③では２項目，視点④では３項目，視点⑤では２項目，視点⑥では５項目です。６つの視点のうち視点②の「あいさつや励ましてあげる声がけができる人間関係を育てる。」について一番多く取り組んでいることがうかがえます。反対に視点⑥の「心をゆさぶる本

や映像，自然などの触れ合いをとおして，感動や疑問をもつ場や機会をつくる。」についての取り組みがあまりなされていないことがうかがえます。

表３－１と表３－２のどちらのグラフも似たような右下がりの形状を示しています。

このことから県内教員（担任）は，全体として典型的な学級経営のスタイルがあるわけではなく，多種多様に学級経営に取り組んでいるといえます。

(2) 因子分析の結果から見える傾向

(1)では，「いつもしている」回答から，多種多様な学級経営に取り組んでいるという県内教員（担任）の現状が見えてきましたが，「いつもしている」回答の割合が高い質問と低い質問にはどんな共通する因子があるのか，詳細を探るために調査した60項目の回答について因子分析（主因子法バリマックス回転）を試みました。

☆因子分析の結果は巻末（p.32）を参照。

分析の結果，60の質問項目には相関が認められる７つの質問群があることがわかりました。また，そのうちの４つの質問群は，いずれも「いつもしている」回答が50％未満の質問項目であり，残りの３つの質問群は，「いつもしている」回答が50％以上の質問項目であることもわかりました。

７つの質問群（29の質問項目が関係）にはそれぞれ何らかの共通因子が含まれていると考えられます。質問内容から，その因子を探ってみると次のようになります。

相関のある質問群	質問内容から考えられる因子名
群１（Q46,Q51,Q57,Q58,Q60）	「学級通信の活用」<第Ⅰ因子>
群２（Q4,Q8,Q21,Q22,Q26,Q27,Q42,Q43）	「交流や話し合い活動の重視」<第Ⅱ因子>
群３（Q47,Q49,Q53,Q54,Q56）	「家庭との連携」<第Ⅲ因子>
群４（Q28,Q29,Q44）	「自然の生命に触れる体験の重視」<第Ⅳ因子>

＊各群を構成する質問は，「いつもしている」回答がすべて50％未満となっている。

群５（Q23,Q24,Q25）	「特別活動の活用」<第Ⅴ因子>
群６（Q5,Q19）	「温かい言葉がけの指導」<第Ⅵ因子>
群７（Q31,Q39,Q40）	「児童の気持ちの安定への働きかけ」<第Ⅶ因子>

＊各群を構成する質問は，「いつもしている」回答がすべて50％以上の質問となっている。

このことから，７つの質問群から探り出される因子を第Ⅰ因子～第Ⅶ因子とすると，県内教員の学級経営に共通する傾向として，第Ⅰ～第Ⅳ因子からはあまりなされていない取り組み，第Ⅴ因子～第Ⅶ因子からはよくなされている取り組みを探ることができます。

改めて整理すると次のようになります。

―県内教員の学級経営の傾向―

<あまりなされていない取り組み>

- **学級通信の活用があまりなされていない。**
- **交流や話し合い活動があまりなされていない。**
- **家庭との連携があまりなされていない。**
- **自然の生命に触れる体験活動があまりなされていない。**

<よくなされている取り組み>

- **学校行事や全校朝会の機会をとらえて，場に応じた態度や振る舞い方を育てる。協力した喜びを味わわせる。粘り強く頑張った充実感を味わわせるなどに努めている。**
- **うまくいったときやつまずいたときの温かい言葉がけに努めている。**
- **教師自身がモデルとなっての礼節指導や児童自身が気持ちをコントロールし安定を図るような働きかけに努めている。**

あまりなされていない取り組みの中で，「交流や話し合い活動があまりなされていない」というのは，一体どんなことに起因しているのでしょう。**【信頼関係を築くクラスづくりのための６つの視点】**の根底を成すものは「交流による児童相互の関わり」です。児童が互いに関わりをもつこと無くしては，どの視点からも迫ることができません。そこで，これについて詳しく見てみることにします。

第Ⅱ因子「交流や話し合い活動の重視」に関係する各質問Q4，Q8，Q21，Q22，Q26，Q27，Q42，Q43で共通しているのは，「話し合う」「考えを出し合い協力する」ことです。児童が互いの意見を出し合って折り合いをつけたり，つまずいて考えを修正したりすることは時間がかかります。このことから，交流や話し合い活動があまりなされていないのは，時間をかけない効率的な指導をしている結果だということが考えられます。児童相互の交流を図る活動を設定するためには，教師主導による一斉指導から，必要に応じた小集団の話し合い活動の導入，話し合って決定するまでの過程を児童にゆだねる姿勢や試行錯誤し修正する時間を保障することなど，発想の転換が必要になります。

また，交流に関連して他と関わるための具体的なスキルを練習させることも必要です。スキル指導に関わる質問の「いつもしている」回答の％を見ると，

Q7　友達の意見への質問，つなげて発言などができるよう発問の工夫や話型の指導をしている。(35％)

Q20　学期の始めや席替えの際，ゲーム等で感情の交流を図るようにしている。(38％)

Q38　相手を傷つけないで，自分の意思や考えを伝える方法を練習する機会を取り入れている。(23％)

です。Q7，Q20，Q38は，発表のための話型，構成的グループ・エンカウンター，ソーシャル・スキル・トレーニング等，いずれも他と関わるためのスキルを指導しているか否かを問う項目ですが，あまりなされていないことがうかがえます。しかし，他と関わることが苦手な児童にとって具体的な方法や技術を身につけることが必要になります。

(3) 学級経営チェック表の作成

(2)で述べた第Ⅰ因子～第Ⅶ因子は，県内教員（担任）に見られる共通の因子です。そこで，それぞれの因子に対する取り組みがどうかを調べるための〔**学級経営チェック表**〕を考案しました。学級経営に関する要素全体を網羅するものではありませんが，自己チェックし改善の参考にしてください。

チェック表は，各質問への回答を点数化し因子ごとの取り組みレベルを３段階に判定し，結果を図に表すようにもしてあります。

また，チェック表の最後には，結果に対する**【改善のためのアドバイス】**も一覧表にしてありますので参考にしてください。

☆〔**学級経営チェック表**〕と**【改善のためのアドバイス】**は，巻末（p.28～29）に掲載してあります。

学級経営を自己チェックした結果，「ときどき取り組んでいる」や「ほとんど取り組んでいない」という因子が見つかるかもしれません。その因子のレベルアップを図ることは大切ですが，対処療法的に取り組むことが必ずしも学級経営の改善につながるとは言えません。

今できている因子をさらに高めていくことで他の因子も高まっていくことや，学級の人数の違いにより一律にはいかないことも考えられるからです。

そこで，判定の結果を踏まえた上で，担任や児童の特性，さらには学校全体の状況などに応じて，これからめざす学級経営の改善点や改善の方法について構想を立てることが大切です。

Ⅵ　「学級崩壊」に関する事例に学ぶ

＊「学級崩壊」に関する事例について

平成13年度に実施した「学級経営」に関するアンケート調査の際，同時に，自由記述により，学級崩壊に関する事例提供を依頼しました。

事例収集にあたっては，学校名や個人名が特定されないよう十分配慮することを明記した上で，「自分の判断でこれまで学級崩壊の危機を感じたことがある方」を対象に，「どんな状況でしたか」「どんな対応をしましたか」「結果はどうでしたか」の３点について事例の提供をお願いしたところ，59名の教員から回答がありました。

☆詳細は，２年次中間報告 p.17～p.21を参照。

1　提供事例について

提供事例を，次の(1)～(4)の項目について整理してみました。

…2年次中間報告（平成13年度）記載内容

(1) 学級崩壊の危機を感じた時に見られた具体的な状況

＊記述いただいた回答から抜粋

- 指示が通らない。子どもの表情が暗い。言葉づかいが悪く，トラブルが絶えない。
- 多くの子が遅刻するようになる。学級全体にやる気のなさが広がり，とげとげしい口調を感じる。
- 授業中，話を聞こうとせず，鉛筆で机をたたいたり，足で床を踏んで音を立てたりして妨害する。注意すると自分ではないと言って笑ってごまかす。
- 授業中の私語，よそ見，全員そろって気を付けができない。体育の時間，自分たちでさっと並べない。給食を残す。みんなでやり遂げる喜びをあまり知らない。学力が低下している。
- 女子の半数くらいに無視され，相手にされない。
- 教師の話を聞かない。授業中，歩き回る。紙飛行機を飛ばす。勝手に他教科のドリル学習をしている。
- 仲間と話す。教師は黙々と教科書を読むが，児童はそれぞれ勝手なことをしている。
- 涙ながらに子どもたちに話す担任を笑い，笛の練習をしている。先生を「おばさん」と呼ぶ。
- 授業中に子ども同士の大げんかが始まり授業にならない。ノートやプリントも書かない子が何人かいる。校内のルールは守れない。授業中，漫画を読んだり，私語が絶えない。
- 注意すると特定の子どもが激しく抵抗する。
- 授業を聞かない。教師に対する暴言。
- エスケープ。指示を聞かずに勝手なことをする。教師をからかう。授業を妨害する。
- みんなでまとまって盛り上がることがなく，一生懸命やることに対してしらけた雰囲気がある。
- 学級全体の学力が低下する。正しいことが通じない。
- 担任の教科書を隠す。担任の悪口を壁に書いたり彫ったりしている。

(2) 学級崩壊の危機を感じるに至った状況（59事例を①～⑥のいずれかに分類）

状　　況	事例数
① 一人の児童によって学級が振り回されている状況	10
② 複数の児童によって学級が振り回されている状況	4
③ 一人の児童の言動が複数児童，あるいは学級全体に波及した状況	13
④ 女子児童とうまく信頼関係が築けなくなった状況	4
⑤ 学級が全体的に落ち着かず，思うように授業が成立しない状況	26
⑥ その他	2

学級崩壊の危機を感じるに至った状況には，少数の特定児童の粗暴な言動が全体に波及していく場合と，気がついたときには何となく学級全体が落ち着きのない状態で教師の指示が通らない状況に陥っている場合が見られました。また，事例の多くは入学時や転任して受け持った学級，クラス替えのあとに起こりやすい状況があるようです。

(3) 対応の結果と協力体制

下表は，59事例のうち「結果はどうでしたか」について記述のあった55事例について，記述内容から判断できる範囲で，対応の結果と周囲の協力体制について分類したものです。協力体制については，「どんな対応をしましたか」に対する回答内容から，記載の有無により判断しました。

結　果	協　力　体　制	事例数
好転した（37例）	学校（教職員）と保護者の両方の協力があった	11
	学校（教職員）の協力があった	10
	保護者の協力があった	3
	（協力の有無について記載がないもの）	13
好転しなかった（18例）	学校や保護者の協力を得ても好転に至らなかった	8
	学校や保護者に協力を求めたが得られなかった	5
	（協力の有無について記載がないもの）	5

また，59の事例の中には学級担任を交代した事例が６例あり，そのうち４例では学校や家庭が協力して解決の道を模索しています。そして担任交代により６例中５例が好転しています。

それぞれの事例は，実態も状況もさまざまで一概に比較はできませんが，好転の事例から未然防止の手がかりを探ることができそうです。

好転した事例のうち３分の２は，学校や家庭の協力を得ています。また，協力を得ても好転に至らなかった事例のほとんどが高学年に集中しています（８例中７例）。状況も高学年ほど深刻さが増し，好転には時間を要する様子がうかがえます。学級の雰囲気に変化を感じたら，できるだけ早く同僚の教職員に相談し，場合によっては学校全体，家庭の協力を要請しながら好転に向けての方策を探ることが大切です。

(4) 好転に至った対応と具体的な対処の方法

好転に至った対応のポイントは，６つに分類できます。好転した37事例の対処方法を，事例数の多い順に①～⑥として分類しました。１つの事例について対応のポイントが複数ある場合が多く，重複回答となっています。

① **学校体制で対応**…＜事例数21＞

- 職員全体の問題にし，同じ態度で接し指導した。
- 管理職や担任外の先生がバックアップした。
- 職場で話し合い，悩みを聞くなどして明るい雰囲気づくりに努めた。
- 連日職員会議を開き，共通理解を図った。
- 校長，教頭も交え学年ブロックで対応を協議した。
- 生徒指導プロジェクトを組み，いろいろな方策を考えた。それを担任が表に立って実行した。
- 学年で業間や給食，清掃時の様子を見つめ話し合った。交換授業をしたり，クラスをオープンにしながら学年でみていく体制をとった。
- 学校体制を充実させて多くの手をかけた。

② **児童一人一人に対応**…＜事例数16＞

- サブティーチャーを配置し，個別指導にあたった。
- できるだけ子どものよさをほめ，励ましの言葉をかけてあげるようにした。
- 楽しいテーマを決めて200字作文を宿題にし，毎日赤ペンで返事を書いた。
- 個別に話の聞き方について指導した。
- 放課後，一人一人の話を聞く機会を設けた。
- 一人一人の子どもとできるだけおしゃべりするようにした。

③ **家庭との連携**…＜事例数14＞

- 家庭訪問したり，保護者に来校してもらい，その子のよさを探すよう話し合った。
- 父母に率直に話し，協力してもらった。
- どういう方向で子どもを育てていくかお互いに話し合い，理解と協力をお願いした。
- 学級だよりでがんばっていることやよくなったことを知らせるようにした。

④ **学級づくり**…＜事例数12＞

- 子どもたちの仲を深める活動を増やし，いいクラスだと思わせることを続けてきた。
- 紙芝居や読み聞かせをして心を落ち着かせた。
- そうじをまじめにすることをとても大切にした。
- ＳＧＥ（構成的グループ・エンカウンター）的な方法で児童同士の交流を持たせた。
- 学級通信を発行して信頼関係を築くようにした。
- 学級で楽しいことをたくさん行い，共有できるようにした。
- 合唱づくりに力を入れ，ほめながら指導した。
- ゲーム大会やクラスのイベントを行い，子どもたちに計画・実行させ，活躍の場を与えるようにした。
- 学習の約束や学級の約束を話し合い，達成感を味わわせるようにした。

⑤　授業改善…＜事例数８＞

・授業を改善し，毎日全員が発表できる場を設定した。
・道徳を重視し，心を揺さぶる題材を毎週行った。
・わかる授業，楽しい授業をするための教材研究。
・授業の中で，一部の児童のために中断したりせず，テンポよく進めていった。

⑥　毅然とした態度…＜事例数７＞

・悪いことは悪いと毅然とした態度で接し，直るまで徹底して継続した。
・追従し，まねしようとする児童には厳しい態度で接しやめさせた。
・静かになるまで徹底した。
・大事なことは強い態度で根気よく諭した。
・担任が，安易な方向には流れない姿勢をはっきり見せた。

アンケートをみると，好転に至った事例には，単一的な対処で解決に至ったものは少なく，他の教職員の協力を得ながら家庭との連携をはかり，さらに学校生活のさまざまな場面において児童と信頼関係をつくる細かな手立てを工夫し，子どもの心情に寄り添って根気よく指導を継続するなど，幾重にも重ねた対処の結果として好転に至った経緯が見て取れます。

2　「学級崩壊」未然防止のために

提供事例から，鍵となる言葉を抽出するカテゴリー分析を行ったところ，「学級の荒れ」や「学級崩壊」の未然防止につながるキーワードが浮かび上がってきました。そのキーワードをもとにして，〔**学級崩壊のチェック表**〕と兆しを感じたときの〔**対応表**〕を作りましたので，学級経営の工夫・改善の参考にしてみてください。

なお，チェック表の状況と対応表の内容は，アンケートに記載されていた言葉をそのまま用いています。

☆〔**学級崩壊チェック表**〕と〔**対応表**〕は，巻末（p.31）に掲載してあります。

さらに，提供事例の分析から，学級崩壊の未然防止につながる効果的な指導の視点として次の６項目があげられます。これも参考にしてください。

【学級崩壊未然防止につながる６つの視点】

(1)　ＴＴ授業，交換授業，相談やアドバイス，全職員で対応など，学校全体で取り組む。
(2)　楽しい・わかる授業，道徳の重視など，授業改善に努める。
(3)　児童の気持ちに寄り添って話を聴く，個別指導など，児童一人一人に対応する。
(4)　よさや頑張りをほめ，悪いことは妥協しないで指導するなど，毅然とした態度を取る。
(5)　話し合い，合唱づくり，給食，清掃など，心が通い合う学級づくりに配慮する。
(6)　学級通信，懇談会，保護者会での協力の要請，家庭訪問など，家庭と連携を図る。

（巻末資料）

こんなところから始めてみませんか

☆学級で行われている様々な活動を，クラスづくりの６つの視点を軸に整理してみました。

	★自分の存在を実感することができるために	★あいさつや励ましてあげる声がけができる人間関係を育てるために	★自分の気持ちや考えなどを，安心して交流できる人関関係を育てるために
教科・領域・総合的な学習の時間	✐全員が発言できるように，発問や指名の順序等を工夫しましょう。 ✐国語や道徳，総合的な学習等で，自分の個性や夢を見つめる学習を設定しましょう。 ✐自己証価を通して自分自身の頑張りを見つめられるようにしましょう。	✐個に応じてやや難しい学習課題や，他との協力を必要とする課題等を設定し，励ましながら挑戦させましょう。 ✐つまずいても，試行錯誤し修正していく過程を大事にし，支援しましょう。 ✐「おいしい。」「また頑張ればいいよ。」「一緒にやってみよう。」等の声がけや教え合いを大事にしましょう。	✐互いに話し手の方を向きながら聞き，うなずきながら受容できるようにしましょう。 ✐友達の意見に質問したり，つなげて発言したりできるような発問の工夫や話型の指導をしましょう。 ✐話しやすい利点を生かした小集団学習を取り入れましょう。
特別活動	✂一人ひとりが活躍できる役割をもたせましょう。 ✂努力していることを見つけてほめてあげましょう。 ✂相互評価により互いのよさを伝え合えるようにしましょう。	✂ほめ合うことを中心に，「帰りの会」を運営しましょう。 ✂児童中心の「あいさつ運動」への取り組みを支援しましょう。 ✂行事後に，互いの頑張りを伝え合えるようにしましょう。	✂学期初めや席替えの際，構成的グループ・エンカウンター等で感情の交流を図りましょう。 ✂行事の中で班や係り活動を通して，考えの交流を図りましょう。 ✂登校班や縦割り活動を通して，異年齢間の交流を図りましょう。
その他の場面	❑「ありがとう」と言える学級の雰囲気をつくりましょう。 ❑他の教師や教育相談員と連携して児童理解に努めましょう。	❑給食や清掃活動での頑張りを励ましてあげましょう。 ❑あいさつをかわす心地よさを体験させましょう。	❑感情の行き違いの際は，互いに解決の方法を考えさせましょう。 ❑相手を傷つけないで自分の考えを伝える方法を練習させましょう。
家庭との連携	✉学級だよりや学級懇談会で，児童のよさを伝えましょう。 ✉家庭訪問で，児童のよさを中心に語り合いましょう。	✉学級だより等で，児童の頑張りを家庭にも伝えましょう。 ✉気落ちしている児童を励ますよう家庭と協力しましょう。	✉学級だよりに家庭からの声の欄をつくりましょう。 ✉親子行事や学習参観等で，親子で活動する機会をつくりましょう。
学庭学習	✍個に応じた取り組みができるよう配慮しましょう。 ✍日記指導を通して，児童理解に努めましょう。	✍児童の提出物に，励ましの言葉を書き添えてあげましょう。 ✍日記指導を通して，励ましのメッセージを伝えましょう。	✍学習してきたことを紹介し合うようにしましょう。 ✍本人の了承を得た上で，日記を紹介してあげましょう。

学級の個性に応じてできるところから

◇ 下の例を参考に，あなたの学級では具体的にどんな働きかけができるのか考えてみましょう。

◇ 現在取り組んでいることを整理したり，今後の方向性を確かめたりすることなどにご利用ください。

	★自己コントロール（我慢）できた体験を大事にするために	★目標をみんなで達成できた喜びを体験できるようにするために	★心をゆさぶる本や映像，自然などとの触れ合いをとおして，感動や疑問をもつようにするために
教科・領域・総合的な学習の時間	✐落ち着いて座り人の話を最後まで聞く等，学び方が定着するように工夫しましょう。 ✐少し困難な課題や練習が必要な学習等で，ねばり強く頑張った過程をほめてあげましょう。 ✐克服型の学習や道徳等を通して，頑張り続けることを学習できるようにしましょう。	✐互いに関わり合いながら目標を達成できるように，話し合いの時間を十分保障してあげましょう。 ✐生活科や社会等の調査活動に班学習を取り入れ，協力して達成する喜びを味わわせましょう。 ✐合唱や合奏，栽培活動，共同製作等，協力して達成するような学習を設定しましょう。	✐国語や道徳等で，心をゆさぶる読み物や映像に触れる体験をさせましょう。 ✐算数や理科等で，実験や体験を通して疑問をもつことを大事にしましょう。 ✐総合的な学習等の調査活動や製作活動を通して，地域の方々や専門家との触れ合いを大事にしましょう。
特別活動	✂自分の目標への継続した頑張りをほめてあげましょう。 ✂運動会等でねばり強く頑張った充実感を味わわせましょう。 ✂集会や卒業式等で場に応じた態度を育てましょう。	✂学習発表会等で協力した喜びを味わわせましょう。 ✂～集会や～大会等考えを出し合い創る体験をさせましょう。 ✂試行錯誤ができる時間を十分保障しましょう。	✂飼育や栽培等で生命に触れる体験をさせましょう。 ✂遠足等で自然の事物に触れる体験をさせましょう。 ✂心身の成長を実感できる体験をさせましょう。
その他の場面	❑不安な気持ちを乗り越え挑戦できるよう励ましましょう。 ❑衝動的な感情を抑えてトラブルを回避できるよう支援しましょう。	❑長縄跳び等，協力して達成できた体験をさせましょう。 ❑清掃等でみんなで仕事をやりとげた体験をさせましょう。	❑遊びの中で季節感や自然の不思議さに気づかせましょう。 ❑心をゆさぶる本を，学級文庫にそろえてあげましょう。
家庭との連携	✉家の手伝い等を継続できた頑張りを大事にしましょう。 ✉地域の公園の清掃等，やりとげた充実感を大事にしましょう。		
学庭学習	✍個に応じた目標を立てられるように支援しましょう。 ✍日記や自主課題等，継続して頑張っていることをほめてあげましょう。		

信頼関係の中で成長する子ども

〔学級経営チェック表〕

－チェックの方法－

1　学級経営をチェックする29の質問(右ページ)に回答する。回答は，「いつもしている(3点)」「ときどきしている（2点)」「ほとんどしていない（1点)」から選択する。

2　各質問文の後の（　　）に得点を記入する。

3　因子ごとに各質問群の得点を合計し，合計点を判定表の「合計点数」の欄に記入する。

4　「判定基準」にしたがって，各因子について「いつも取り組んでいる，ときどき取り組んでいる，ほとんど取り組んでいない」の3段階に判定し，○を線でつなぐ。

－判定基準－

	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子	第Ⅳ因子	第Ⅴ因子	第Ⅵ因子	第Ⅶ因子
いつも取り組んでいる	10～15点	16～24点	5～8点	8～9点	5～9点	4～6点	4～6点
ときどき取り組んでいる	8～9点	14～15点	9～10点	6点	4点	3点	3点
ほとんど取り組んでいない	5～7点	8～13点	11～15点	3～5点	1～3点	1～2点	1～2点

＊各因子を構成する質問数が異なるので，それぞれ3段階に分けられるよう合計点数を区分しました。

－判　定　表－

第Ⅰ因子～第Ⅶ因子	合計点数	いつも取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	ほとんど取り組んでいない
第Ⅰ因子：学級通信の活用		○	○	○
第Ⅱ因子：交流や話し合い活動の重視		○	○	○
第Ⅲ因子：家庭との連携		○	○	○
第Ⅳ因子：自然の生命に触れる体験の重視		○	○	○
第Ⅴ因子：特別活動の活用		○	○	○
第Ⅵ因子：温かい言葉がけの指導		○	○	○
第Ⅶ因子：児童の気持ちの安定への働きかけ		○	○	○

※【改善のためのアドバイス】(p.30)もお読みいただいて，今後の学級経営改善の具体策を考えてみましょう。

－改善の具体策－

－学級経営をチェックする29の質問－

【第Ⅰ因子：学級通信の活用】

①児童の紹介や活躍の様子を紹介する等，一人一人が主人公になるよう学級通信を活用している。（　）
②児童の頑張りを学級通信で保護者に紹介し，励ましていただくようお願いしている。（　）
③みんなで取り組んでいる目標について家庭にも知らせ，声がけをお願いしている。（　）
④みんなで取り組んで達成できた喜びを，学級通信等で家庭にも知らせている。（　）
⑤学級通信等をとおして児童の感動体験を伝えたり，情報収集を呼びかけたりしている。（　）

【第Ⅱ因子：交流や話し合い活動の重視 】

①やや難しい学習課題や他との協力を必要とする活動等を設定し，挑戦させている。（　）
②話しやすい利点を生かし，適宜，小集団学習を取り入れている。（　）
③学校行事や委員会活動，係り活動等をとおして，互いの考えの交流を図るようにしている。（　）
④学校行事や委員会活動,係り活動等に関して,目標への継続した頑張りをほめるようにしている。（　）
⑤学級・学年行事の○○大会等，児童が考えを出し合いながらつくる活動を体験させている。（　）
⑥長縄跳び等の遊びをとおして，協力して達成できた活動を体験させている。（　）
⑦互いに関わり合いながら目標を達成できるように，話し合いの時間を十分保障している。（　）
⑧つまずいたとき，どうしていったらよいかを，児童に話し合わせている。（　）

【第Ⅲ因子：家庭との連携】

①我慢して自己コントロールできた場面を家庭にも知らせて，ほめてもらうようにしている。（　）
②学校で気落ちすることがあった場合，本人を励まし必要に応じて家庭とも連絡を取り合っている。（　）
③家の手伝いや地域の清掃等を継続できた頑張りや充実感を大事にするよう働きかけている。（　）
④児童の長所や成長を確認し伸ばす場として，学級懇談会や家庭訪問を計画的に活用している。（　）
⑤日記や家庭で学習してきたことを，互いに紹介し合うようにしている。（　）

【第Ⅳ因子：自然の生命に触れる体験の重視】

①遠足等で，自然の事物に触れる体験を大事にしている。（　）
②飼育や栽培等で，生命に触れる体験を大事にしている。（　）
③遊びの中で，季節感や草花や生き物の成長を実感できるようにしている。（　）

【第Ⅴ因子：特別活動の活用】

①全校朝会や卒業式等の儀式的行事で，場に応じた態度や振る舞い方を育てるようにしている。（　）
②合唱や合奏，学習発表会等の学校行事で，協力した喜びを味わわせるようにしている。（　）
③水泳大会や運動会等体育的行事で，粘り強く頑張った充実感を味わわせるようにしている。（　）

【第Ⅵ因子：温かい言葉がけの指導】

①うまくいった児童に「すごい」「がんばったね」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。（　）
②児童がつまずいたとき，「おしい」「がんばろう」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。（　）

【第Ⅶ因子：児童の気持ちの安定への働きかけ】

①児童が，不安な気持ちを乗り越え挑戦できるよう励ましている。（　）
②児童が，衝動的な感情を抑えてトラブルを回避できるよう指導している。（　）
③教師自らモデルとなり「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える雰囲気作りに心がけている。（　）

【改善のためのアドバイス】

＊下記の視点を参考に学級経営を見直し，今後の改善にお役立てください。

		見直しの視点
第Ⅰ要因	学級通信の活用	学級通信の活用の仕方を見直してみましょう。保護者は，担任がどんな学級づくりをしようとしているのか関心を持っています。学級内のトラブルも，担任がどう判断し児童と共にどう解決したかを伝えることで，保護者も同じ姿勢で声がけしてくださるでしょう。また，学級通信を担任からの一方通行のものに終わらせず，保護者からの意見欄を設けるなど有効に活用しましょう。学級通信は，担任と家庭をつなぎ教育効果を高めるための有効な手段です。
第Ⅱ要因	交流や話し合い活動の重視	児童が考えを出し合いながらつくる活動や互いに協力を必要とする活動等を設定し挑戦させているか見直してみましょう。あらかじめ教員が決めた路線に児童を乗せるだけでなく，つまずいたときどうしていったらよいかを話し合わせ，児童自身が決定し修正していく体験が大切です。そのためには，話し合いの時間を十分保障したり，話しやすい利点を生かして適宜小集団学習を取り入れたりすることが大切です。また，他と関わるための具体的なスキルを身につける練習の時間を設定することも必要です。
第Ⅲ要因	家庭との連携	児童の教育に当たり，家庭との連携が十分なされているか見直してみましょう。学級懇談会や家庭訪問を計画的に活用していくだけでなく，日常，こまめに連絡を取り合うことが大切です。学校で気落ちすることがあった場合，必要に応じて家庭とも連絡を取ったり，我慢して自己コントロールできた場面を家庭にも知らせるなど，きめ細かな情報交換が大きな効果につながります。
第Ⅳ要因	自然の生命に触れる体験の重視	自然や生命に触れる体験を大事にしているか見直してみましょう。豊かな自然体験は，気持ちを安定させ感動する心を育みます。遊びや飼育栽培等で，自然の事物や生命に触れ，季節感や草花や生き物の成長を実感できるよう活動を設定しましょう。
第Ⅴ要因	特別活動の活用	学級活動や児童会活動，学校行事などの特別活動が，忙しさに追われこなすだけのものになっていないか見直してみましょう。特別活動は，体験をとおして児童にさまざまな力をつけることができる，またとないチャンスです。例えば儀式的な行事でも，それをとおしてどんな力を育てるのかという目標を明らかにして臨み，過程における児童の話し合いや試行錯誤を大事にしましょう。
第Ⅵ要因	温かい言葉がけの指導	児童の成長を願う余り，過度な叱咤激励になっていないか見直してみましょう。互いに励まし合える学級づくりは共感的な人間関係を生み，それぞれの自己存在感の高まりにもつながります。日常，担任が児童への温かい言葉がけを配慮する姿が，児童に対するよいモデルとなります。
第Ⅶ要因	児童の気持ちの安定への働きかけ	児童は，教員からの働きかけに大きく左右されます。自分の投げかける言葉や態度が，児童にどう届いているか見直してみましょう。そのためには，児童の様子をよく観察し，今どんな心理状態にあるのかを把握することが大切です。また，どんな言葉がけが有効かは一人一人違っています。どんな言葉がけや働きかけをすれば児童に受け入れられるか考えることが必要となります。

〔学級崩壊チェック表〕

＊気になる項目（あてはまるキーワード）があったら，学級経営について振り返り，見直してみましょう。

No.	状況	チェック
1	表情が暗い	
2	言葉づかいが悪い	
3	とげとげしい口調	
4	発言が少ない	
5	話を聞けない	
6	私語が多い	
7	ノートやプリントに記入しない	
8	机などに傷をつける	
9	学力低下	
10	指導についてこない	

No.	状況	チェック
11	指示が通らない	
12	友達関係がうまくいかない	
13	いじめ	
14	教師をからかう	
15	教師への反抗	
16	一人の子どもに追従する子が出現する	
17	複数の児童が学級の統制をかき回す	
18	正義が通らない	
19	収拾がつかない	
20	親が教師批判をする	

⇩

〔 対 応 表 〕

学級崩壊の兆しが感じられたときの具体的な『対応』	授業	・計画をしっかり立てるなど授業改善をする
		・交換授業やＴＴ授業を取り入れる
		・学級で話し合う
		・話の聞き方を指導する
	活動	・活躍できる場をつくる
		・楽しい活動を行う
		・達成感のある活動を組む
	受容・指導	・子ども一人一人と対応する
		・温かく受容する
		・励ましの言葉をかける
		・明るい雰囲気づくりを心がける
		・構成的グループ・エンカウンターを取り入れる
		・よいことはほめる
		・悪いことは毅然とした態度で接する
	連携・相談	・学年の先生に相談する
		・管理職に相談する
		・学校全体で対応する
		・学級通信を出す
		・保護者と連携する
		・相談機関と連携する

—「学級経営」に関するアンケート調査の因子分析（主因子法バリマックス回転）結果—

質問No	場面	視点	視点内容	I	II	III	IV	V	VI	VII	共通性
			第Ⅰ因子：学級通信の活用 （α＝.83）								
58	D	5	みんなで取り組んで達成できた喜びを，学級通信等で家庭にも知らせている。	.75	.08	.12	.03	.19	.01	.11	.54
51	D	2	児童の頑張りを学級通信で保護者に紹介し，励ましていただくようにお願いしている。	.74	.15	.13	.09	.05	.17	.03	.53
46	D	1	児童の紹介や活躍の様子を紹介するなど，一人一人が主人公になるような学級通信を活用している。	.69	.15	.06	.13	-.03	.10	-.02	.46
60	D	6	学級通信等をとおして児童の感動体験を伝えたり，情報収集を呼びかけたりしている。	.67	.16	.16	.15	.08	.02	.08	.47
57	D	5	みんなで取り組んでいる目標について家庭にも知らせ，声がけをお願いしている。	.48	.06	.34	.03	.21	.07	.14	.40
			第Ⅱ因子：交流や話し合い活動の重視 （α＝.75）								
42	C	5	互いに関わり合いながら目標を達成できるように，話し合いの時間を十分保障している。	.07	.54	.06	.10	.01	.07	.16	.28
26	B	5	学級・学年行事の○○大会等，児童が考えを出し合いながらつくる活動を体験させている。	.09	.54	.02	.10	.10	.06	.12	.26
21	B	3	学校行事や委員会活動，係り活動をとおして，互いの考えの交流を図るようにしている。	.07	.53	.21	-.08	.12	.14	-.03	.32
43	C	5	つまずいたとき，どうしていったらよいかを，児童に話し合わせている。	.06	.47	.14	.15	.01	.11	.32	.32
8	A	3	話しやすい利点を生かし，適宜，小集団学習を取り入れている。	.05	.46	.04	.04	.07	-.02	-.02	.18
27	B	5	長縄跳び等の遊びをとおして，協力して達成できた活動を体験させている。	.11	.43	.11	.06	.08	.00	.07	.02
22	B	4	学校行事や委員会活動，係り活動をとおして，自分の目標への継続した頑張りをほめるようにしている。	.12	.43	.27	-.03	.24	.25	-.03	.34
4	A	2	やや難しい学習課題や他との協力を必要とする活動等を設定し，挑戦させている。	.09	.42	.12	.06	.11	.05	.06	.22
			第Ⅲ因子：家庭との連携 （α＝.67）								
56	D	4	我慢して自己コントロールできた場面を家庭にも知らせてほめてもらうようにしている。	.11	.16	.55	.15	.03	.06	.15	.28
49	D	2	学校で気落ちするようなことがあった場合，本人を励まし必要に応じて家庭とも連絡を取り合っている。	.13	.14	.46	.08	.13	.11	.23	.27
54	D	4	家の手伝いや地域の公園の清掃等を継続できた頑張りや，やり遂げた充実感を大事にするよう児童や保護者に働きかけている。	.16	.23	.39	.23	.06	.17	.00	.27
47	D	1	児童の長所や成長を確認し伸ばす場として，学級懇談会や家庭訪問を計画的に活用している。	.17	.12	.39	.16	.18	.02	.06	.22
53	D	3	日記や家庭で学習してきたことを，互いに紹介しあうようにしている。	.22	.27	.37	.20	-.04	.03	.01	.27
			第Ⅳ因子：自然の生命に触れる体験の重視 （α＝.64）								
29	B	6	遠足等で，自然の事物に触れる体験を大事にしている。	.06	.08	.20	.61	.13	.07	.08	.30
28	B	6	飼育や栽培等で，生命に触れる体験を大事にしている。	.09	.10	.06	.55	.17	.03	.06	.25
44	C	6	遊びの中で季節感や草花や生き物の成長を実感できるようにしている。	.19	.07	.21	.51	-.04	.14	.08	.28
			第Ⅴ因子：特別活動の活用 （α＝.60）								
24	B	4	全校朝会や卒業式等の儀式的行事で，場に応じた態度や振る舞い方を育てるようにしている。	.06	.10	.03	.09	.55	.06	.07	.22
25	B	5	合唱や合奏，学習発表会等の学校行事で，協力した喜びを味わわせるようにしている。	.13	.16	-.01	.09	.53	.19	.09	.26
23	B	4	水泳大会や運動会等体育的行事で，粘り強く頑張った充実感を味わわせるようにしている。	.07	.16	.18	.07	.46	.03	.10	.22
			第Ⅵ因子：温かい言葉がけの指導 （α＝.61）								
19	B	2	うまくいったときに「すごい」「がんばったね」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。	.08	.08	.14	.10	.10	.62	.04	.27
5	A	2	児童がつまずいたとき，「おしい」「がんばろう」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。	.10	.11	.07	.07	.09	.60	.19	.29
			第Ⅶ因子：児童の気持ちの安定への働きかけ （α＝.62）								
39	C	4	児童が，不安な気持ちを乗り越え挑戦できるよう励ましている。	.12	.21	.21	.12	.18	.14	.54	.34
40	C	4	児童が，衝動的な感情を抑えてトラブルを回避できるようにしている。	.04	.21	.27	.08	.18	.16	.46	.31
31	C	1	教師自らがモデルとなり「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える雰囲気づくりに心がけている。	.10	.06	.02	.08	.11	.36	.36	.21
			寄与率	22.24	7.11	5.75	5.18	4.53	4.14	3.64	
			累積寄与率	22.24	29.35	35.10	40.28	44.82	48.96	52.60	

—アンケート調査内容—

※アンケート用紙そのものは中間報告書に掲載してあります。

A【小学生の発達と生活に関するアンケート】…平成12年10月～11月実施

・対象：県内の小学校３年生から６年生の児童

・人数：児童2,898名（61校）

今の学年になってからのことについて，自分にもっともあてはまるものを①～④から選択して回答。

①よくある　②少しある　③あまりない　④まったくない

〔質問内容は次の21項目〕

Ｑ１　何かうれしいことがあったとき，クラスの誰かに話すことがありますか。

Ｑ２　何か困ったことがあったとき，クラスの誰かに相談することがありますか。

Ｑ３　クラスの中でイライラしたとき，人に当たりちらさないで我慢していますか。

Ｑ４　授業中に人の話を最後まで聞いていますか。

Ｑ５　クラスの中で自分が役に立っていると思うことがありますか。

Ｑ６　自分のいいところを三つ以上言えますか。

Ｑ７　クラスの中に失敗してがっかりしている人がいるとき，励ましてあげますか。

Ｑ８　クラスの中の誰かにお願いしたいことがあったとき，やさしく頼んでいますか。

Ｑ９　本当はいやだと思っていることでも，クラスの人に言われると，「いいよ。」と言うことがありますか。

Ｑ10　クラスの人から「今日，いっしょに遊ぼう。」と誘われましたが，出かける用事があって遊べません。こんなとき，相手をいやな気持ちにさせないように，上手に断っていますか。

Ｑ11　クラスの中の誰かに何か悪いことをしてしまったとき，素直に謝っていますか。

Ｑ12　あなたは，朝，教室の中に入るとき，あいさつしていますか。

Ｑ13　クラスの人たちの中で，自分の意見や考えを言っていますか。

Ｑ14　クラスの人に声をかけたり，一緒に遊んだりしていますか。

Ｑ15　クラスの人ともめごとがあったとき，話し合って解決しようとしていますか。

Ｑ16　クラスの人と５～６人以上で，いっしょに遊ぶことがありますか。

Ｑ17　チョウやトンボをつかまえたり，草花を摘んだりしたことがありますか。

Ｑ18　犬やネコ，ウサギなどを，だいたことがありますか。

Ｑ19　本を読んだり，テレビドラマや映画などを見たりして，涙が出るほど胸が一杯になったことがありますか。

Ｑ20　みんなと協力して劇や合唱やスポーツなどに取り組み，喜び合ったことがありますか。

Ｑ21　遊んでいて，泣きたくなるようなけがをしたことがありますか。

※実際の質問用紙では，適切にひらがなを用いています。

B【小学生の発達と生活に関するアンケート】…アンケートＡと同時に調査
・対象：アンケートＡの調査を依頼した小学校で１，２年を担任している教員
・人数：担任教員190名（61校）

アンケートＡの21の質問項目と同じ内容について，次のように質問した。
〔例〕Ｑ１　あなたの学級で，何かうれしいことがあったとき，クラスのだれかに話す児童。
(1)　今年度あなたが受け持っている学年の発達を考えたとき，どこに当てはまるのが適当だと思いますか。
①多くいる　②少しいる　③あまりいない　④全くいない
(2)　今年度あなたの学級の児童は，担任から見てどこに当てはまると思いますか。
①多くいる　②少しいる　③あまりいない　④全くいない
＊Ｑ２～Ｑ21についても同様の質問を行った。

C【「変化する子ども」に関する教員へのアンケート調査】…平成13年10月～11月実施
・対象：県内の小学校103校で学級担任をしている教員
・人数：875名（県内小学校教諭の25％に相当）

全て「あなたの学級で，…（質問内容）…する児童はどれぐらいいると思いますか。」という聞き方で，次の①～④から選択して回答。
①多くいる　②少しいる　③あまりいない　④全くいない

〔質問内容はアンケートＢと同じ21項目〕

D【「学級経営」に関する教員へのアンケート調査】…アンケートＣと同時に実施
・対象と人数はアンケート調査Ｃと同じ

今年度担任している学級について，学校生活の各場面での取り組み状況を，①～③から選択して回答。
①いつもしている　②ときどきしている　③ほとんどしていない

〔質問内容は次の60項目〕
―「教科・道徳・総合的な学習」の時間の中で―
Ｑ１　児童を指名するときは，名前に「さん・君」をつけている。
Ｑ２　発問や指名の仕方を工夫し，どの児童にも発表する機会を保障している。
Ｑ３　国語の作文や道徳などで，自分自身のよさを見つめ直す学習に取り組んでいる。
Ｑ４　やや難しい学習課題や他との協力を必要とする活動等を設定し，挑戦させている。
Ｑ５　児童がつまずいたとき，「おしい」「がんばろう」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。
Ｑ６　互いに話し手の方を向きながら聞き，うなずきながら受容するように指導している。
Ｑ７　友達の意見への質問，つなげて発言などができるよう発問の工夫や話型の指導をしている。
Ｑ８　話しやすい利点を生かし，適宜，小集団学習を取り入れている。
Ｑ９　落ち着いて座り，人の話を最後まで聞く等，学び方が定着するように指導している。
Ｑ10　つまずいて中途半端に終わることがないよう，軌道修正できる時間的余裕を保障している。
Ｑ11　児童と話し合って学級目標を設定し，達成に向かって取り組んでいる。
Ｑ12　生活科や総合的な学習等に班活動を取り入れ，協力して達成する学習を設定している。
Ｑ13　国語や道徳等で，心をゆさぶる読み物や映像に触れる体験をさせている。
Ｑ14　算数や理科等で，実験や体験をとおして疑問をもつことを大事にしている。
Ｑ15　調査活動や観察学習，製作活動など，体験や実験を取り入れた学習を設定している。

―「特別活動」の時間の中で―
Ｑ16　学校行事や委員会活動，係活動などで，一人一人が活躍できる役割や場を保障している。
Ｑ17　自己評価や相互評価など，さまざまな評価の仕方を取り入れている。
Ｑ18　児童が失敗しても責めずに，試行錯誤して修正していく過程を大事にしている。
Ｑ19　うまくいった児童に，「すごい」「がんばったね」など温かい言葉がけをし合うよう指導している。
Ｑ20　学期の初めや席替えの際，ゲーム等で感情の交流を図るようにしている。
Ｑ21　学校行事や委員会活動，係り活動等をとおして，互いの考えの交流を図るようにしている。
Ｑ22　学校行事や委員会活動，係り活動等に関して，自分の目標への継続した頑張りをほめるようにしている。
Ｑ23　水泳大会や運動会等体育的行事で，粘り強く頑張った充実感を味わわせるようにしている。
Ｑ24　全校朝会や卒業式等の儀式的行事で，場に応じた態度や振る舞い方を育てるようにしている。
Ｑ25　合唱や合奏，学習発表会等の学校行事で，協力した喜びを味わわせるようにしている。
Ｑ26　学級・学年行事の○○大会等，児童が考えを出し合いながらつくる活動を体験させている。
Ｑ27　長縄跳びなどの遊びをとおして，協力して達成できた活動を体験させている。

Q28　飼育や栽培等で，生命に触れる体験を大事にしている。
Q29　遠足等で，自然の事物に触れる体験を大事にしている。
Q30　保健学習等で，自分の成長を実感できるようにしている。

―「その他の場面」の中で―
Q31　教師自らモデルとなり「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える雰囲気づくりに心がけている。
Q32　自信がもてない，話しができない児童に対して，養護教諭や教育相談員等と連携を図っている。
Q33　あいさつを交わすことの心地よさを体験できるよう，教師自らがモデルとなり指導している。
Q34　朝や帰りの短学活が，互いのよさを認め合うような内容になるよう工夫している。
Q35　給食や清掃活動等で児童の活動を価値づけし，ほめて励ます機会としている。
Q36　登校班や縦割り班活動等をとおして，異年齢間の交流を図るようにしている。
Q37　感情が行き違った場合は，互いに話し合わせ解決の方法を考え合わせるようにしている。
Q38　相手を傷つけないで，自分の意思や考えを伝える方法を練習する機会を取り入れている。
Q39　児童が，不安な気持ちを乗り越え挑戦できるよう励ましている。
Q40　児童が，衝動的な感情を抑えてトラブルを回避できるよう指導している。
Q41　給食や清掃等で，みんなでやり遂げる体験をさせている。
Q42　互いに関わり合いながら目標を達成できるように，話し合いの時間を十分保障している。
Q43　つまずいたとき，どうしていったらよいかを，児童に話し合わせている。
Q44　遊びの中で，季節感や草花や生き物の成長を実感できるようにしている。
Q45　心をゆさぶる本を，学級文庫にそろえている。

―「家庭学習・家庭との連携」をとおして―
Q46　児童の紹介や活躍の様子を紹介するなど，一人一人が主人公になるよう学級通信を活用している。
Q47　児童の長所や成長を確認し伸ばす場として，学級懇談会や家庭訪問を計画的に活用している。
Q48　家庭学習は，達成感が味わえるような個に応じた内容を工夫している。
Q49　学校で気落ちすることがあった場合，本人を励まし必要に応じて家庭とも連絡を取り合っている。
Q50　日記や家庭学習などの提出物に，励ましのメッセージを書き添えるようにしている。
Q51　児童の頑張りを学級通信で保護者に紹介し，励ましていただくようお願いしている。
Q52　学級・学年の親子行事や学習参観等で，親子で活動する機会を設定している。
Q53　日記や家庭で学習してきたことを，互いに紹介し合うようにしている。
Q54　家の手伝いや地域の公園の清掃等を継続できた頑張りや，やり遂げた充実感を大事にするよう，児童や保護者に働きかけている。
Q55　日記や家庭学習等，個に応じた目標を立て継続している頑張りをほめるようにしている。
Q56　我慢して自己コントロールできた場面を家庭にも知らせて，ほめてもらうようにしている。
Q57　みんなで取り組んでいる目標について家庭にも知らせ，声がけをお願いしている。
Q58　みんなで取り組んで達成できた喜びを，学級通信等で家庭にも知らせている。
Q59　地域の方々や専門家をゲスト・ティーチャーとして招き，交流を大事にしている。
Q60　学級通信等をとおして児童の感動体験を伝えたり，情報収集を呼びかけたりしている。

おわりに

3年間の研究をとおして，本県における子どもたちの実態，学級担任と子どもたちの関わり，学級経営の実態，学級崩壊の未然防止の方法などを明らかにすることができました。

県内の子どもたちの実態については，多くの子どもたちが，思いやりがあり，相手の気持ちを大切にし，温かく関わろうとする協調性があることが分かり，大変うれしく思いました。しかし，言い出しにくい感情や思いを上手に表現することや，自尊感情を高めることが課題であることも分かりました。また，子どもたちの実態と学級担任との意識のズレについても明らかになりました。詳しくは2年次の中間報告にまとめてありますのでご覧ください。

県内教員の学級経営の状況については，温かい言葉がけに努めている，児童自身が気持ちをコントロールし安定が図れるよう働きかけている，粘り強く頑張った充実感を味わわせることに努めているなど，良好な面がたくさんありました。一方，交流や話し合い活動，自然の生命に触れる体験，学級通信の活用，家庭との連携があまりなされていない実態が明らかになりました。現在の学級経営について整理をしたり，どんな働きかけが有効かなどが一目で分かる**【信頼関係を築くクラスづくりのための6つの視点】**のリーフレット（1年次中間報告），学級経営の改善をすすめるための〔**学級経営チェック表**〕と学級経営の見直しを図る**【改善のためのアドバイス】**を作成しましたのでご活用ください。

「学級崩壊」に関する提供事例からは未然防止につながる効果的な指導方法を明らかにすることができました。**【学級崩壊未然防止につながる6つの視点】**，「学級崩壊」未然防止のための〔**学級崩壊チェック表**〕，学級崩壊の兆しが感じられたときの〔**対応表**〕を作成しましたのでこれもご活用ください。「学級崩壊」の未然防止については，学級担任と児童とが信頼関係で結ばれ，学級担任が常に全教職員と連携を図るとともに，家庭とも連携を図りながら子どもたちへの指導にあたるなど，学級経営の基本的な姿勢が重要であることが改めて明らかになりました。授業だけでなく「総合的な学習の時間」「特別活動」など学校生活のさまざまな場面において児童と信頼関係を築いていくことが，子どもたちの成長・発達をうながし，「新しい荒れ・学級崩壊」の未然防止につながっていくものと確信します。

—参考文献—

・実践心理データ解析　田中　敏　著　1996　新曜社
・図でわかる発達心理学　新井邦二郎　編著　2000　福村出版
・図でわかる学習と発達の心理学　新井邦二郎　編著　2000　福村出版
・ソーシャルスキル教育で子どもが変わる　小学校　楽しく身につく学級生活の基礎・基本
　國分康孝　監修　小林正幸・相川　充　編集　1999　図書文化
・社会的スキルの心理学　100のスキルとその理論　菊地章夫・堀毛一也　編　1994　川島書店
・子どもの社会力　門脇厚司　著　2000　岩波書店
・発達心理学ハンドブック　東洋・繁多　進・田島信元　編集企画　1999　福村出版
・発達と学習の心理学　多鹿秀継・鈴木眞雄　編著　2000　福村出版
・学級崩壊を起こさないクラスづくりへの処方箋　小宮山博仁　著　1999　ぎょうせい
・ハヴィガーストの発達課題と教育　生涯発達と人間形成
　R.J.ハヴィガースト　児玉憲典・飯塚裕子　訳　1997　川島書店
・新しい学級経営の条件　当面の課題と実践の要点
　平井文雄・富山 保・平林俊彦　編著　2000　学陽書房
・徹底解剖「学級の荒れ」　深谷昌志　編著　2000　学文社
・学校現場で使えるカウンセリング・テクニック　上　育てるカウンセリング編・11の法則
　諸富祥彦　著　1999　図書文化
・学校現場で使えるカウンセリング・テクニック　下　問題解決編・10の法則
　諸富祥彦　著　1999　図書文化

平成15年３月発行

発行者　山形県教育センター
天童市大字山元字犬倉津2,515
Tel. 023（654）2155

印刷所　豊田太印刷所
山形市立谷川二丁目485—10
Tel. 023（685）5225（代）